

石神中学校だより14号

発行日：令和3年11月11日

2021重点目標〈課題を持って自ら学び、夢の実現のためにやり抜く生徒〉 文責：校長 佐藤恭司

松島へ学習旅行に行きました！1年生

10月29日（金）1学年学習旅行では、自然や文化遺産を見学し、各教科その他の教育活動における指導を拡充し、広い知見と情操を育てるとともに、集団行動の実践・健康安全・集団の決まり・公衆道徳に関する社会性の育成を図ることを目的に実施しました。宮城県松島町で班別自主研修を行い、班ごとに立てた計画をもとに、遊覧船で島巡りをしたり、252mの朱塗り福浦橋を渡ったり、円通院で数珠作りをしたりするなど、生徒たちは松島の自然や史跡に触れながら、さまざまな体験をすることができました。（文責 1学年主任 宮原千津）



～「出会い橋」として有名な「福浦橋」～



～遊覧船「仁王丸」で島巡り～

東日本大震災・原子力災害伝承館等見学2年生



東日本大震災・原子力災害 伝承館展示見学



Jヴィレッジ全天候型運動場内

10月29日（金）、2学年は双葉町の「東日本大震災・原子力災害 伝承館」と楡葉町の「Jヴィレッジ」に行ってきました。「東日本大震災・原子力災害 伝承館」の展示見学を通して、東日本大震災から10年を迎えた双葉郡の被災地のこれまでの歩みや現状を踏まえ、復興はどこまで成し遂げられたのか、残された課題にどのように取り組むべきか、東日本大震災の経験や教訓を次なる巨大災害への備えや復興にどのように活かすべきかについて考える機会とさせたいです。

この思いを生徒たちはしっかりと受け止め、震災語り部の渡辺好さんの口話や遺品、震災資料を真剣に見聞していました。伝承館で学んだことを班新聞にまとめました。新聞は、3階学習室に掲示していますので、学習の成果のまとめをぜひ三者懇談の時にご覧頂きたいと思います。午後は、「J ヴィレッジ」で昼食を食べた後、全天候型運動場で思い思いに体を動かし、楽しみました。秋晴れの中、学習旅行スローガン『学びと交流の二刀流を目指そう！』○「自分事としての学びを深めよう。」○「学級内・学年内の交流を深めよう。」を達成できた充実した一日となりました。

(文責 2学年主任 嶋野真一)

楽しかった富士山周辺への修学旅行 3年生

3年生の修学旅行は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴い、2度の延期を余儀なくされてきましたが、10月28日(木)より2泊3日で実施することができました。3日間、晴天に恵まれ、大きな事故やけがもなく、全員が無事に、笑顔で帰校することができました。3日間の修学旅行では、どの生徒も時間やルールをしっかり守って行動し、協力して活動することができました。また、どの見学地でも素直な気持ちで全力で楽しむ生徒の姿が見られ、思い出に残る修学旅行になったのではないかと思います。このような状況下での修学旅行の実施に対し、保護者の皆様には、いろいろご心配をおかけしたと思いますが、ご理解とご協力ありがとうございました。

(文責 3学年主任 佐藤朝恵)



体験コース 西湖カヌーツーリング



富士山五合目 観光ガイドさんより説明

～ねがい～ 江戸仕草「うかつあやまり」を考えよう

昔の江戸(東京)は、日本各地から様々な人が集まって住むようになり、その頃世界で一番人口の多い町(約100万人)でした。江戸の町で気持ちよく暮らせるように、「江戸しぐさ」という仕草、心得、マナーがありました。雨の日に狭い路や橋の上ですれ違うときは、お互いに傘のしずくで濡れないように、傘を人のいない方に傾けて、すれ違う「傘かしげ」をしました。もう一つ紹介したいのが、「うかつあやまり」です。「うかつ」とは、うっかりする。つまり、「不注意、ぼんやりしている」ということです。例えば、人混みで足を踏まれてしまいます。踏んだ人が「ごめんなさい」と謝るのは当たり前ですが、踏まれた方も「こちらも、うかつでした。うっかりしていて、すみませんでした」と謝るのです。これを「うかつあやまり」というのです。「何で足を踏んだんだ。どこを見て歩いているんだ」などと怒ったりせずに、踏まれた人もぼんやりしていたことを詫びて、お互いに譲り合い許し合うことで、穏やかに平和に暮らすという江戸の人の知恵だったのです。私たちの生活の中でも取り入れたい「うかつあやまり」の話でした。